

第1章 計画の基本的な考え方

1 子どもの読書活動の意義

読書は、子どもにとって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

子どもの身体の成長に良質な食べ物が必要なように、健やかな心の成長には、愛情や友情、様々な直接体験が必要です。同時に、読書することによって、子どもは、広い世界や未知の出来事に出会い、様々な人生を体験することができます。物語の主人公と共に悩み、悲しみ、喜び、そして感動する中で、しだいに思いやりの心、命を大切に作る心、たくましく生きる力や豊かな人間性が育まれていきます。また、読書は、子どもが自ら考え、判断し、課題を発見し、解決していく主体的な力を培うこともできます。次代を担う子ども達にとって、読書の果たす役割は、計り知れなく大きいものがあります。

小さな子どもは、自分で本を読むことはできませんが、親が絵本を読んであげることによって、赤ちゃんから絵本を楽しむことができます。子どもにとって、親のぬくもりや愛情を感じながら絵本を読んでもらうことは大きな喜びであり、読書する楽しさを知ります。絵本を媒体とした、かけがえのない時間の共有は、親子の信頼関係を築き、親子のコミュニケーションを深めます。心豊かな人生をおくる上で、乳幼児期からの読書習慣の形成は、極めて大切と考えられます。

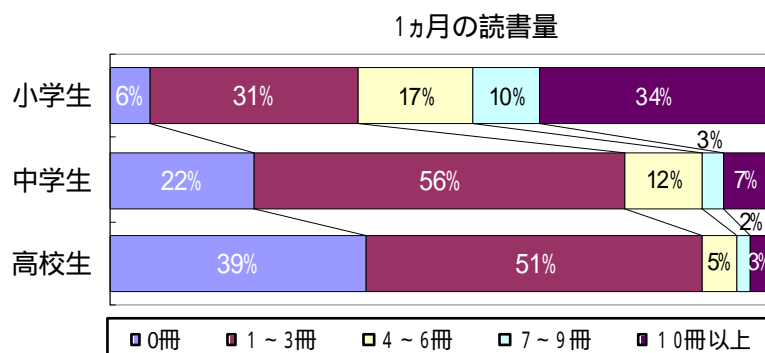
2 野辺地町における子どもの読書活動の現状と課題

「読書世論調査2006年版」（毎日新聞社発行）によると、1ヵ月の平均読書冊数は、小学生7.7冊、中学生2.9冊、高校生1.6冊であり、また、1ヵ月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合は、小学生5.9%、中学生24.6%、高校生50.7%と、年代が上がるにつれ読書離れが顕著になる傾向が報告されています。しかし、平成13年度から19年度に行われた教育課程実施状況調査等によると、平日に「全く本を読まない」と答えた割合は、減少傾向にあり、特に中学生の減少が顕著になっています。

平成18年9月の読書アンケート調査による、野辺地町における子どもの読書の現状は、下記の通りです。

● 子どもの1ヵ月の読書量

1ヵ月の読書量は、次のグラフの通りで、1ヵ月に1冊も本を読まなかった児童生徒の割合を全国平均と比較すると、小学生は全国とほぼ同じですが、中学生や高校生では、その割合が低くなっています。しかし、平均読書冊数は1～3冊が一番多く、4～6冊と7～9冊読む子どもの割合が全国よりも低いため、1ヵ月の読書量は少ないと考えられます。



● **本を読むのが好きになった理由**

本を読むのが好きか嫌いかを尋ねたところ、「好き」「少し好き」と回答した小学生は82%、中学生は76%、高校生は70%がと高い割合になっています。好きになった理由は、【表1】によると「学校で朝の読書をするようになったから」の割合が高く、子どもが読書に親しむための機会の提供が極めて重要と言えます。次に「本が家にあったから」「学校図書室や学級文庫に読みたい本があったから」「図書館に読みたい本があったから」の割合が高いことから、子どもが読みたい本が、家庭、学校、図書館等の身近にある環境作りに努めることが必要とされています。

子どもが本を好きになる理由は、下記の【表1】の通り多様ですが、家庭や幼稚園・保育園(所)、図書館等では、子どもが読書の楽しさや喜びを感じ、読書に親しむ機会を作り出すため、乳幼児期からの本の読み聞かせも大切です。

【表1】本を読むことが好きになった理由（複数回答） 数字は%

	小学生	中学生	高校生
学校で朝の読書をするようになったから	47	37	34
本が家にあったから	43	37	40
学校図書室や学級文庫に読みたい本があったから	48	24	24
図書館に読みたい本があったから	43	27	19
本を読んでもらったから	27	5	17
図書館の行事に参加したから	18	10	6
本を紹介してもらったから	14	14	14
プレゼントに図書券や本をもらったから	14	11	10
家の人が本好きだから	13	7	12
その他	7	13	14

● **本を読むのが嫌いな理由**

一方、「本を読むのが、あまり好きでない」「嫌い」と答えた小学生は18%(132人)、中学生は24%(100人)、高校生は30%(53人)で、嫌いな理由は、下記の【表2】の通りです。本を読むのが嫌いな理由が、「文字を読むのが面倒だから」の割合が高く、活字離れ・読書離れの一因となっています。また、本を読んで、おもしろいと感じたことがない子どもや自分で読みたい本を選べない子どもには、家族や学校の先生、司書、友達がおすすめの本を紹介したり、本選びのための手助けをする必要があります。

【表2】本を読むことが嫌いな理由（複数回答） 数字は%

	小学生	中学生	高校生
文字を読むのが面倒だから	48	59	43
どんな本を読んだらいいのか、わからないから	35	17	25
おもしろい本に出会ったことがないから	19	29	30
その他	6	12	8

● 1ヵ月に1冊も本を読まなかった理由

1ヵ月に1冊も本を読まなかった小学生は6%（49人）、中学生は22%（89人）、高校生は39%（206人）で、あまり本を読むことが好きでなくても、「朝の読書」などで読む時間が確保されていることにより、本を読んでいる子どもが多くなっています。

しかしながら、本を読まなかった理由が、「本を読むのが嫌いだから」と回答した子どもが、小学生33%、中学生30%、高校生22%となっています。家庭や学校や図書館では、子どもが、楽しく読めるような本と出会うためのきっかけ作りや読書環境の整備が必要です。

その他の子どもの1ヵ月に1冊も本を読まなかった理由は【表3】の通りです。また、子どもの帰宅後の過ごし方は【表4】の通りです。ゲーム、携帯電話、テレビやインターネットなど情報メディアの発達、普及や子どものライフスタイルの変化により子どもの活字離れが進み、読み書き能力の低下が全国的に指摘されています。

【表3】 読まなかった理由（複数回答） 数字は%

	小学生	中学生	高校生
マンガや雑誌の方が楽しいから	51	46	51
ゲームやテレビ・ビデオの方が楽しいから	49	48	31
本を読むのが嫌いだから	33	30	22
読みたい本がなかったから	22	39	34
勉強や塾や習い事で忙しかったから	20	11	1
部活や委員会活動で忙しかったから	14	24	24
携帯電話の方が楽しいから ※2	—	—	13
バイトで忙しかったから ※2	—	—	26
その他	0	4	15

※2は、高校生のみの選択肢

【表4】 帰宅後の過ごし方（回答数3つまで） 数字は%

	小学生	中学生	高校生
宿題や勉強をする	75	55	8
テレビやビデオを見る	37	67	65
ゲームやインターネットをする	28	39	27
マンガや雑誌を読む	22	44	52
本を読む	25	16	14
外で友達と遊ぶ※1	28	12	—
塾や習い事に行く	30	7	3
家の中で遊ぶ（テレビやゲーム等以外）※1	18	7	—
携帯電話で友達と話す、メールをする ※2	—	—	62
その他	4	7	18

※1は、小・中学生のみの選択肢 ※2は、高校生のみの選択肢

3 計画の目的

この計画は、野辺地町の子どもたちが読書に親しみ、楽しみや喜びを感じ、自ら読書する力を身に付け、人生をより深く豊かに生きるための読書環境や諸条件を整備し、町全体で子どもの読書活動を推進することを目的として策定したものです。

4 計画の期間

この計画は、平成20年度から5年間にわたる施策の方向を示すものです。また必要に応じて見直すことにより、より実情にかなったものとしていきます。

5 計画の対象

0歳からおおむね18歳までを対象とします。

6 財政上の措置

計画の具現化に財政上の措置が必要なものについては、交付金や補助金を活用しながら、年度予算に反映し実現を図っていきます。

